

麦穂だより

第21号

発行 武蔵野手打ちうどん保存普及会川崎支部 2007年6月
事務局 川崎市麻生区白鳥3-13-3 北條鈴子 TEL044-987-9149
ブログ URL (<http://teuchiudon.exblog.jp/>)

糧(かて)うどん

北條秀衛(川崎支部事務局長)

「武蔵野手打ちうどん保存普及会」の本部では、小平市のふるさと村(川崎市の日本民家園をこぶりにしたような古民家や水車小屋などからなる野外博物館施設)で市から許可を得て、うどんの普及発展のために訪れる市民にうどんを業として提供している。営業日は土曜、日曜、時間は午前11時から2時~3時で50食、売り切れると店じまいとなる。一食450円で、メニューは「糧うどん」のみであり、食べ方は冷たいうどんに温かいつゆで糧とともに食べる。本部会員が交代でうどんづくりから配食まで全てまかなっている。

施設の入り口に「糧うどん」の手作りの看板が立ててあるが、この糧について小平市民はその意味を理解しているのだろうか。

糧とは季節の野菜をゆでたもので、うどんといっしょに食べることで、バランスの良い栄養となるよう工夫した、古人の知恵のなせる技であろう。

小平市民で昔からうどんを愛用してきた人々にとってこの糧は何の疑問もなく、すんなりと受け入れられるのであるが、私のような新参者にとっては「？」が点滅するのである。ちなみに広辞苑を紐解いてみると次のように記している。

〔糧・粮〕カテ

- ① 古代、旅行などに携えた食糧、糲(ほしい)の類。かりて。竹取物語「ある時は糧尽きて草の根をくひものとしき」

- ② 食糧。特に、貯え置く食物。方丈記「糧ともしければ、おろそかなる報をあまくす。」「日々の糧」
- ③ 活動の本源。力づけるもの。「心の糧」

私のこれまでの理解は「日々の糧」「心の糧」であり、うどんそのものが糧であり、うどんとともに食べるゆでた野菜が何故「糧」なのか「？」なのである。ちなみに酒のつまみを地方によっては「あて」と呼んでいる。思うにこの「あて」の方が意味的には近いのではないだろうか。うどんのつまみ即ち「あて」が何故か「糧」になったのである。「あて」がなまって「かて」になったのだろうか。

「小人閑居して善をなさず」と言われているが、定年を迎え、若干時間のできたせいか、くだらぬことを考えてしまって悩んでいるが、そんなことよりも、うどんといっしょに野菜を食べることの方が大切なのである。高血圧、糖尿、通風、肥満、コレステロール、メタボリック対策に野菜はうどんよりも効果が大なのである。

定年後の生活の「糧」であるうどん。やはり私にとって「糧うどん」は何にも代え難いものである。



平成19年度 定期総会を開催

とき 平成19年6月3日(日) 午後1時～4時

ところ 川崎市立高津高等学校

午後1時、よもぎうどん作りを開始。(参加者 会員22名、役員12名)

ねかせている時間を利用し、1時45分から本部会長のイタリア研修旅行の報告を聞く。

武蔵野手打ちうどん保存普及会本部は今年創立20周年を記念し、加藤会長の遺志を継いでローマを中心に南部イタリアの観光も含めて国立パスタ博物館見学や料理学校でのパスタ実演を見学、試食した。本当は武蔵野手打ちうどんを実演しパスタ競演を実現したかったが、検疫に引っかかるという理由で小麦粉を持参出来なかったことが残念であった。なお、うどん会のエプロンが好評だったのでプレゼントしてきた。参加者は23名、川崎支部からは本部会員でもある山崎健三さんが参加した。

定期総会次第

- 1 開会の辞 (司会進行) 山田 敏徳・幹事長
- 2 支部長挨拶 池田 輝夫・支部長
- 3 来賓挨拶 山口 昭本・部会長
来賓紹介 宮崎 喜義・本部幹事長 / 畑野 勝美・事務局長
- 4 議長選出 長野 隆英・(会員)
- 5 議事
議案第1号 平成18年度事業報告について 北條 秀衛・事務局長
議案第2号 平成18年度決算報告について 門井 孝一・幹事
会計監査報告について 島根 正隆・監事
議案第3号 平成19年度事業計画(案)について 北條 事務局長
議案第4号 " 予算(案)について 門井 幹事
議案第5号 役員の改選について 山田 幹事長
(新役員 副支部長・館 健三 / 顧問・藤嶋 とみ子)
- 6 閉会の辞 山田 幹事長

池田支部長挨拶より

本部からご来賓3名出席していただいて有難い。

本部は去る5月13日(日)に第20回定期総会を開催。支部から3名出席した。

支部は2001年(平成13年)に発足しているので今年は7回目の総会になる。

いつも同じことをするのではなく、変わったことにも取り組んでいきたい。

総会の前に今年は変りうどんとしてよもぎうどんに挑戦するのもその表われである。

山口本部会長挨拶より

故加藤会長と同級生であったことで会長を仰せつかっている。

支部は毎回ちびっ子の参加が多く、うらやましい。

お招きいただいて感謝している。

その他

会則第7条2項を改正。(2 会議は、全て支部長が提案し、総会の議長については、出席者の中から選出し、他の会議については支部長が議長となる。)

川崎支部活動報告(前号以降)

2007年

3月11日(日) 支部講習会 高津高校調理室
午前15名 午後13名 役員15名

5月15日(火) 支部役員会 総合自治会館 役員8名
当日の議題・総会の運営について
・19、20年度の役員体制
・19年度の活動計画
・その他

6月 3日(日) 19年度定期総会 高津高校
参加者 会員22名 役員12名
本部3名(山口会長、宮崎幹事長、畑野事務局長)
・前段で、参加者全員によりよもぎうどんづくりを試みる。



(3月11日支部講習会にて)



(定期総会に来賓の本部役員)

秋の研修旅行(予告)

第3回目となります研修旅行。今回は群馬県。

期日 11月11日(日)

群馬県桐生市には、桐生うどん会(加盟26店舗)がありますが、うどん屋さんには64軒あります。その中で厳選をして2軒ほどお邪魔したいと思います。

道中プログラムとしては、紅葉鮮やかな渡良瀬溪谷と富弘美術館に立ち寄ります。道の駅で群馬の物産お買い物なども。

桐生菊祭りも見学できればと考えております。

皆様の予定表を空けておいてください。



○19年度講習会等の予定

- ・支部講習会 7月1日(日)、9月30日(日)、12月9日(日)、3月9日(日)
- ・指導者養成講習会 9月

※詳細はおって連絡します。ブログでも掲載していきます。

イタリア・パスタ旅行で考えたこと

山崎 健三 (本部・支部会員)



(権威ある料理学校「チッタ・デル・グスト」にて)

先日、武蔵野手打ちうどん20周年記念のイタリア旅行に参加してきました。小平本部が作成する会報(特集号)の原稿に「イタリア・パスタはグルテンが少ない」だなんて判ったようなことを書きましたが、ここでは少し反省の弁をとらせて下さい。限られた体験で確実な表現をするのは避けた方がよかったです。

考えてみれば、食文化というのは食物だけが全てではなく、食べる人間の味覚と相対的に関係します。イタリア・パスタは8世紀もの歴史を持ちながら、その間にパスタの素材や作り方だけでなく、人間の味覚も変わってきているかもしれません。我々が旅行中に見学した国立パスタ博物館の歴史も、そのままの形で現代に生きているという訳ではありません。従って、現代のイタリア人が今のパスタを最上のものと感じるのであれば、そのことは長い年数をかけて、古のパスタが色々の事情の中で変わってきたと考えられます。旅行の感想としては、あまり複雑でないほうが判りやすいと思いますが、歴史のある食文化には、世界遺産と同様に、それなりの重みを感じざるをえません。

博物館のしおりは、日本人見学者の為に、日本語訳文によるものが用意されていました。さらに同館内を案内する日本語のオーディオ・ガイドまで整えていたということは、世界のパスタ消費国の一つに日本を充分理解していることを知りました。

ウドンウドンウドンウドンウドンウドンウドン **あとがき** ウドンウドンウドンウドンウドンウドンウドン

6月22日は夏至でした。気象庁はその1週間前に関東地方の入梅を宣言。とたんに梅雨が明けたように、青い空に真夏の太陽が照りつけ「梅雨はいったい何処にいったしまったの?」と思わせる連日でした。そろそろ梅雨空が戻るかと思う頃、沖縄県での梅雨明けを宣言。日本列島の気候は実に千変万化です。

6月初旬東海道新幹線の車窓から麦秋が見受けられました。新しい粉の美味しいうどんを味わい、鬱陶しい時期を乗りきりましょう。(光)